

かさま 社協だより

No.53



編集・発行 2024.4.18

社会福祉法人笠間市社会福祉協議会広報委員会 笠間市美原3-2-11 TEL.0296-77-0730
E-mail info@kasama-syakyo.jp URL https://www.kasama-syakyo.jp/



サロン悠遊（柿橋団地）

撮影 畠山

も く じ

- ① 令和6年度 社協事業計画および予算 2～3
- ② 令和5年度地域づくり合同集会 4～5
- ③ サロン悠遊・ふれあいサロン来栖送迎はじめました 6
- ④ 大旭支部ふれあい食事会・岩間西部地区三世代交流会 7
- ⑤ ボランティアセンターだより 8～9
- ⑥ 『社協』を知っていますか？その12・フードパントリー・ちょっといい話 10
- ⑦ 善意銀行・寄付者紹介 11
- ⑧ インフォメーション 12



この広報誌は赤い羽根共同募金の配分金を受けています。

計画および予算

第4次笠間市地域福祉活動計画を策定しました

本計画は、令和6年度から施行の、地域福祉の進め方を示した4か年の計画です。

基本理念

誰もが安心して暮らせる地域社会
～みんなでつくる福祉のまち～

計画の期間

令和6年度～9年度
(4年間)

基本目標 1

支えあう輪づくり

～みんなで支えあう地域共生社会の推進～

関係機関や地域住民との連携・協力のもと、身近な生活圏域での住民主体の福祉活動をより一層強化するとともに、地域の各種団体との協働の取り組みを広げ、地域におけるネットワークや支えあいの体制づくりに取り組みます。

基本目標 2

ふれあう人づくり

～ふれあいと心を育むボランティア活動の推進～

子どもから高齢者まで住民一人ひとりが地域福祉活動に理解と関心をもち、人と人とのつながりを大切にする意識、こころのふれあいの充実が図れるようボランティア活動の支援や啓発を強化します。

基本目標 3

安心する地域づくり

～すべての人が安心して暮らしていける支援の充実～

地域住民から寄せられる多様な生活課題を受けとめ、関係機関と連携し適切な対応ができる相談支援体制づくりや、地域から孤立することなく安心して暮らすための福祉サービスを提供し、在宅生活を推進します。

基本目標 4

安定した基盤づくり

～社協組織体制の強化～

組織体制の強化と職員の資質向上を図るとともに、多くの住民から信頼される市社協を目指し、行政とのパートナーシップで地域福祉を推進します。

また、災害時の対応について平常時から訓練等を実施し、地域住民とともに助けあえる体制づくりに努めます。

計画書はこちらからダウンロード
することができます



令和6年度

社協事業

1 法人運営事業

- ① 理事会・評議員会の開催及び監査の実施
- ② 正副会長会議の開催
- ③ 部会・委員会等の開催
- ④ 社協会員（法人・特別一般）の加入促進
- ⑤ 善意銀行事業の推進
- ⑥ 連絡調整及び支援協力の充実
- ⑦ 各種会議・研修会の実施及び参加
- ⑧ 指定管理業務等の適正管理
- ⑨ 事務局体制の充実・強化
- ⑩ 福祉人材育成
- ⑪ 福祉大会の開催（隔年）

2 地域福祉推進事業

- ① 小地域福祉活動の推進
- ② 福祉教育の推進
- ③ 子育て応援事業【新規】
- ④ ボランティアアセンタールの運営
- ⑤ 配食サービス事業
- ⑥ 広報啓発活動の推進
- ⑦ 相談事業（心配ごと相談・法律相談）
- ⑧ 法人後見受任事業
- ⑨ 資金等貸付事業
- ・生活福祉資金貸付事業
- ・特例貸付フォローアップ支援
- ※資金借受人へ訪問等を実施
- ・小口資金貸付事業

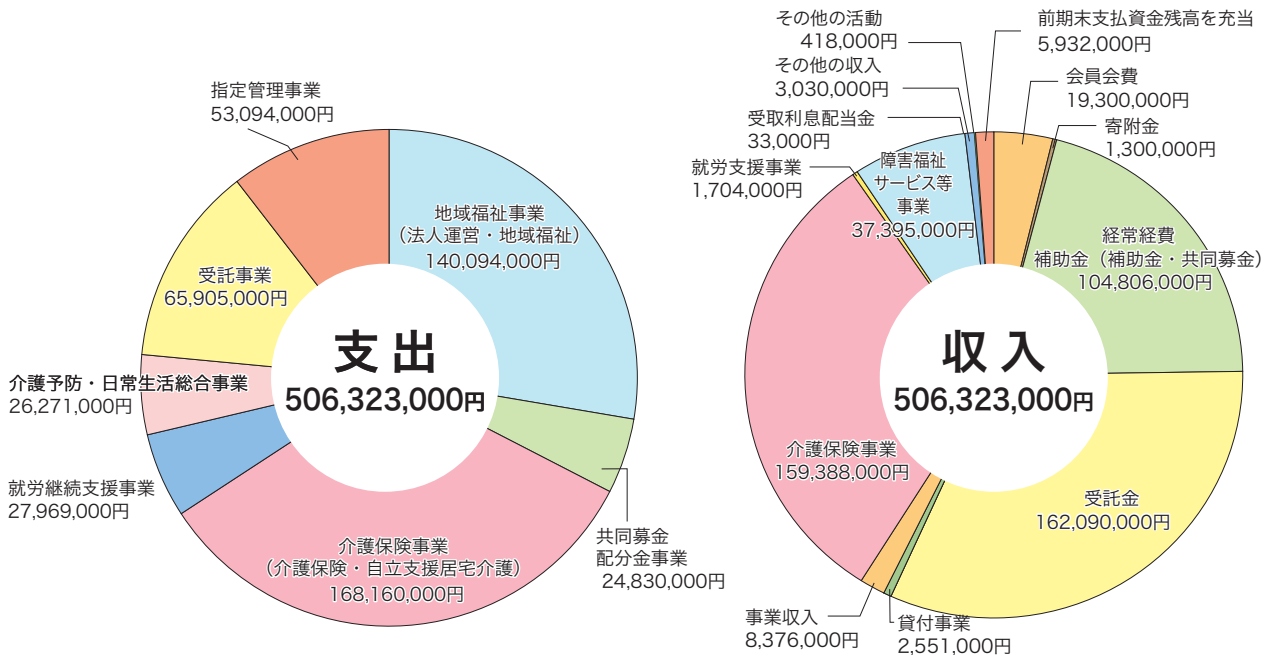
3 受託事業

- ⑩ 介護予防・生活支援サービス事業
- ・いきいき通所事業
- ・ふれあいサポーター事業
- ⑪ 就労継続支援B型事業
- ⑫ 指定相談支援事業所の開設【新規】
- ⑬ ひきこもりサポーター事業
- ⑭ 福祉用具の貸出・斡旋
- ⑮ 福祉バスの管理・運営
- ⑯ 赤い羽根共同募金、歳末たすけあい配分事業の実施
- ⑰ フードバンク活動

4 介護保険事業、障害福祉サービス事業

- ① 地域ケアシステム推進事業
- ② 在宅福祉サービスセンター事業
- ③ 日常生活自立支援事業
- ④ 生活困窮者自立相談支援事業・家計相談支援事業
- ⑤ 手話奉仕員養成研修事業
- ⑥ 生活支援体制整備事業
- ⑦ 在宅重度身体障害者訪問入浴サービス事業
- ⑧ 移動支援事業
- ① 居宅介護支援事業
- ② 訪問介護事業
- ③ 訪問入浴介護事業
- ④ 自立支援居宅介護事業

資金収支予算





づくり合同集会

アチーム員研修会・生活支援体制整備事業研修

3月16日(土)友部公民館で、支部地区社協活動研究集会・在宅ケアチーム員研修会がコロナ禍での中止を経て、4年ぶりに開催されました。
今回は「よりよい地域をめざして」と題して、社協福原支部・松山サロンまつぼっくり・地域ケアコーディネートターの活動報告があり、その後、「こころ元氣研究所」所長鎌田敏氏の講演が行われました。



大切になる。

記念講演 講師 鎌田 敏様 「地域の絆、みんなの笑顔」～住民同士で支え合う地域づくり～

小さなことを積み重ねていこう
人の心はその場の空気に感染する。人とのコミュニケーションしながら、心にとつて良い空気づくりをして欲しい。心にとつて良い空気は気持ちの良い挨拶など、小さなことの積み重ねから生まれる。
ストレスでイライラした時は息抜きが大切。一人で悩まずに人に相談することである。
良い人間関係
コミュニケーションは一方通行ではトラブルになり易い。従って、話し合う、また聴き合う等のことが

地域の絆、みんなの笑顔
自分が言われて元気になる言葉を相手にも贈ると良い。その場合、相手の良い所を探してプラスの感情を揺らして欲しい。また、雑談は心の距離が近くなるという点で大切。相手に関心を持って共通点を話すようにすると良い。
笑顔の輪を咲かせよう
今日もやることがあるということは幸せなこと。自分の健康管理をしながら誰かの役に立ちましょう。また、笠間市のあちらこちらに笑顔の輪を咲かせましょう。
講演者のお勧め
・認知症の予防、脳トレに効果のある「一人じゃけん」
・身体と心がほぐれる「両手振り体操」
詳しくは著書「ストレスの9割はコントロールできる」をご覧ください。(白土)

鎌田敏さんのプロフィール

1968年生まれ。大阪育ち。阪神大震災や自身のパニック障害等の経験を持つ。2005年に「こころ元氣研究所」を設立、こころ元氣配達人・元氣習慣アドバイザーとして全国各地で講演や研修活動を行っており、これまでに30万人以上が受講している。



お口の健康について

支部



ふれあい活動をもっと、すーっと!

福原支部長 深谷 敏知

地域には活動力を持った区長、民生委員がおり、事業のております。

福原支部は平成26年8月31日に設立されました。JR水戸線福原駅を中央に、第109区から109区、人口1732名の地域で、元の福原小学校跡地の地域交流センター福原を中心に活動しております。
以前より、福原公民館の活動が活発だった事もあり、運営委員の方々には、福原支部の事業推進にも参画していただいております。

計画、推進の助言者、リーダーとして協力を受けています。役員構成は、支部役員9名、運営委員(福祉推進員11名含)37名。

活動の目的

関連機関との連携など六項目を掲げ、地域内ふれあい活動の推進と協力を第一とし、支部主催の事業とセンター福原(旧公民館)、団体グループ等への助成協力事業を二本の柱としてお歌の原つば

主な事業(主催)

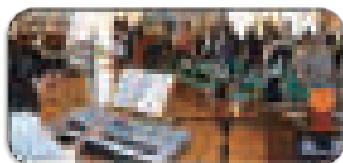
- ・福祉学習会
- ・歌の原つば
- ・広報誌発行(年2回)

後援協力事業

- ・ふれあい訪問
- ・ふれあい会食会
- ・敬老祝賀会
- ・センター福原事業

今後の課題(交流機会増)

- ・内容の充実(範囲と回数)
- ・後援協力事業の増加
- ・関連機関団体との連携協調「からだを気づかい、笑顔をお互いに思いあつて」を、常に活動の真ん中に。





4年ぶりに開催された合同集会

令和5年度

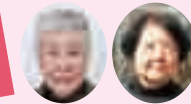
地域

支部地区社協活動研究集会・在宅ケ

企画内容
 グラウンドゴルフ、輪投げ、体操、ゲーム（ビンゴ、かるた、百人一首）、生け花、プリザーブドフラワー、折り紙、切り紙、クリスマスリース作り、ブローチ作り、読み聞かせ、

参加費 100円（お茶菓子代）※材料費別途

サロン
 活動内容は協力会員全員が企画し、準備は月ごとの担当者3名が行う。開催は毎月第3週目の回覧板で案内



サロンの意義とあゆみ
 松山サロンまつぼっくり事務局

松山団地住民による松山サロン「まつぼっくり」は東日本大震災後に共助の大切さを再確認し、顔のみえるご近所付き合いの場として発足し今年で11年目を迎えた。

サロン運営
 開催日時 毎月第一水曜日
 午前10時～12時
 開催場所 松山団地自治会館
 運営 協力会員15名 事務局担当者3名（任期2年）



出前講座（音楽鑑賞、笠間の歴史、健康講話、消費生活センター）、バザー、ゴキブリ団子作り、バター作り、けん玉、おて玉、防災について

今後の課題

- ・協力会員や参加者をどのように増やすか
- ・男性が参加しやすい企画を考える。
- ・体を動かすスポーツ系の催しにも挑戦したい。
- ・団地の皆さんからの企画ご要望を参考にしたい。

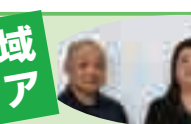
高齢者、障がい者と対象者を限定しないのが特徴で、支援を必要とする方が世帯の中に複数いる場合、ファミリーケアとして包括的に支援できるのが強みです。

地域ケアコーディネーターの現在の役割は、支援が必要な方の福祉についての希望やサービス内容を把握し、各関係機関がうまく連携できるように調整します。

支援については、サービス調整会議を開催して、対象者

高年齢者、障がい者と対象者を限定しないのが特徴で、支援を必要とする方が世帯の中に複数いる場合、ファミリーケアとして包括的に支援できるのが強みです。

地域ケア
 地域ケアコーディネーター



ひとりで悩まないで!
 地域ケアコーディネーター

地域ケアアシストム推進事業は、平成6年から茨城県独自の福祉施策として開始されました。当時は介護保険もなく、ケアマネジャーなどの調整役がいなかったため、地域ケアコーディネーターが調整役となり、保健・医療・福祉の在宅サービスが総合的に提供されるよう支援してまいりました。



顔の見える他職種連携会議

の状態で意向に合わせ、どのようなサービスが必要か検討したり、今後の方針や経過について話し合います。行政や関係機関との連携により、情報収集が必要です。

また、救急医療情報キットの設置や、地域包括支援センターの窓口業務の一つとして、介護サービス未利用者宅の訪問なども行っています。

今回、地域づくり合同集会にて「知的障がい者世帯が地域で安心して暮らす」事例を発表しました。地域での見守りと、行政や各関係機関との連携が、いかに重要かを感じています。

地域で困っている方や心配な方がいましたら、お気軽にご相談ください。

10月新設

柿橋団地サロン悠遊

代表 桐原 元

当団地も高齢者が増えて、外出や人との交流をひかえる人も出てきました。そこでたまには気軽に顔を合わせておしゃべりできる場、サロンを昨年10月に立ち上げました。

名称「サロン悠遊」は、こせこせしないでゆったりと遊ぶ雰囲気大切にとの造語です。

サロンではリハビリ体操と歌うことを必ずやります。体操は体力の衰えを遅らせ健康を維持するため、家でできるまで続けます。日頃大きな声を出す機会が少ない中で月毎に異なる楽器の演奏を聴きながら歌います。その後はおしゃべりなど楽しい

二時間を過ごすとを心掛けています。昨年12月は拡大サロン、プロによるハーモニカ演奏会でした。曲によつて4本のハーモニカを使うなど一人の演奏と思えない複雑な音色にみんなが感動した一時間でした。



リハビリ体操

二時間を過ごすとを心掛けています。昨年12月は拡大サロン、プロによるハーモニカ演奏

今後、外出や交流が面倒だと思う人は更に増えます。そうした人たちに参加してもらいたいのがサロンです。のぞいてみようと思つてもらえる集いになることが大きな課題です。

毎月の参加者は15名前後です。年間の日程と主な企画を決めました。より楽しく笑いのある時間にするための肉付けはこれからです。

毎月第4土曜日、12月は第2土曜日、会費は毎回二百円でお茶と少しのお菓子を用意しております。



桐原さんのハーモニカ伴奏で歌う

ふれあいサロン来栖送迎はじめました

参加者の皆さんも、安心して帰れます



ふれあいサロン来栖では、介護予防や健康づくり、誰もが気軽に参加できる交流の場として、毎月1回サロンを開催しています。平成30年7月から6年近く、地域の集いの場として多くの方に親しまれています。

今回、サロンに参加したくても移動手段がなく参加できない方のために、介護老人保健施設 シルバーケアセンター パールより、地域貢献として運転手と送迎車が提供され、令和5年6月から運行が始められました。

ふれあいサロン来栖代表の塩田幸三さんは「送迎にご協力いただき大変助かってます。参加者の皆さんも安心して帰ることができ、とても喜ん



でいます。これからもふれあいサロンが地域のつながりの力となれましたら幸いです」

シルバーケアセンター パール 支援相談員の永田さんは「来栖地区とのつながりができ、皆さんの笑顔が見られる事が嬉しいです」と話されています。

今後も社会福祉協議会では、地域の皆さんのつながりを大切にしながら、サロン活動を支援していきたいと思

市内ふれあいサロンの紹介はコチラ▼



友地区

歌って笑って 健康長寿

大旭支部 ふれあい食事会

ひな祭りの3月3日、笠間市地域福祉センターともべで、85歳以上の方々(最高年齢は96歳でした)、支部役員、女性部にじの会、各区長、民生委員、社協松田輝雄事務局長・職員など多数が参加し「ふれあい食事会」が開催されました。会場は、主催者(平林英男大旭支部長)側のアイデア・準備により、各テーブルに桃の花が、また一人ひとりに「折り鶴」が用意されており、明るい雰囲気でした。



にじの会の手づくりお弁当

来賓の山口伸樹笠間市長からは「かさま応援大使で101歳の曲師(浪曲) 紹介と楽しく元気な人生を」との祝辞がありました。楽しみにしていたアトラクションでは、最初に、音楽ボランティア「ハー

トレインボー」による進行・演奏により、懐かしの歌謡曲・唱歌をうたいました。次に「野菊の会」のひよつとこ踊りと参加者とのハ



野菊の会のひよつとこ踊り

イタッチ。幸せホルモンが会場いっぱいに広がりました。

食事は、にじの会の『心』をこめた手づくりお弁当、おいしくいただきました。

帰りには、にじの会から「元気で、またお会いできることを楽しみにしています」との手紙とプレゼントが渡されました。

参加者からは「久しぶりに再会できてうれしかった」「歌ったり、おしゃべりしたりして楽しかった」などの感想が多く聞かれました。(寺門)

間地区 岩地

西部地区社協三世交代交流会

上郷をつるおす水のみちとつたえばなし

運営委員長 生駒 敏文

令和4年度の助成事業で作った「上郷の伝え話」DVDの上映会ができていました。子ども会の役員に相談したところ、2月3日の羽梨山神社節分祭の時に言うことになりました。

当日午後、親子40人が参加。語りを担当していただいた中澤敦子さん(NHK朝ドラ「ひよっこ」の茨城弁指導でお馴染みの女優さん)や伝え話の冊子作成に携わってくださった森さんご夫婦にもDVDを見ていただきました。

子どもたちは画面を食い入るように見ていました。保護者の皆さんも、伝え話は殆ど聞いた事が無いようでした。



30分程の上映後、伝え話に出てくる場所を訪ねて歩きました。羽梨山神社をスタートし、宮池から上郷の田んぼを潤した昔の水の流れをた

どりました。途中、みと橋で、見たばかりの「あずさばあ」を中澤敦子さんに語りで披露していただきました。



池田さんの屋敷にあったと言われている黒田権現の跡地を見、僅かに流れている水に沿って下流へと向かいました。

掘之内、御正作、随光寺がゴールでしたが、田んぼ道の方が危なくないだろうと、新築したばかりの朝日観音から岩間金吾の屋敷跡を経由し仲通り公民館に戻りました。

楽しみにしていた羽梨山神社の節分祭が中心となったため、地区社協で用意した豆とお菓子を全員に配りました。

大人たちはかなり疲れた様子でしたが、子どもたちはお菓子をもらいみんな仲良く遊んでいました。

第二話のDVDも完成しましたので、来年もDVD鑑賞会を開く予定です。

センターだより

くりを目指して

「第一火曜日の会」では、毎年まゆ玉を使った干支飾りを作っています。昨年十二支が勢揃いし、今年の干支「辰」から再スタートです。

「大人チャレンジ教室」では災害時に役立つキャンプ技術を学びました。

「子育てママ・パパの応援講座」では、オリジナルの手提げやシューズ入れを心を込めて作成しました。

「レクリエーション講座」では煎茶の淹れ方・バルーンアート・ボッチャの参加者の笑顔が素敵でした。

「傾聴ボランティア講座」では、傾聴に大切な「心の目を合わせる」ことを学びました。



あざやかな緑色に染まった「辰」

笠間では大正時代から養蚕が盛んでした。そのまゆ玉を使って毎年干支飾りを作っています。今回参加した16人のそれぞれの「辰」ができ上がりました。



講師の堤徳郎さん（茨城シニアマスター）と

辰年の「干支飾り」

12/19

まゆ玉人形づくり
地域福祉センターともべ 16人参加

「第二火曜日の会」

赤い羽根共同募金 福祉川柳



ボランティア
みんなでやって
たのしもう

これまでは「福祉作文」でしたが、今年は「福祉川柳」を募集し1,169通の応募をいただきました。冊子にまとめ、市役所・公民館・銀行等においてあります。

3/3 大人のチャレンジ教室

北山公園キャンプ場
講師 一般社団法人茨城県キャンプ協会



災害時に役に立つキャンプ技術や防災について、火おこし体験、空き缶を利用した簡単キャンプ飯など作りました。

13人参加

1/30 赤十字 高齢者・乳幼児 避難所生活支援講座

日赤が実施している地域包括ケアモデル事業でご協力いただき41人参加で実施しました。

この事業は、「自助」や「互助」の意識を高め、良い地域づくりをめざして行っています。

今回、市内のボランティアさんに声をかけ、災害に備えるにはどうするか、避難所生活ではボランティアとして何ができるのか等を学びました。



3/13



出来上がった

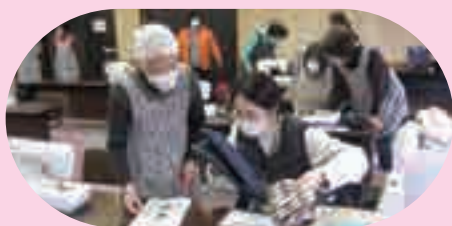
子育てママ・パパの応援講座

地域福祉センターいわま

オリジナルの手さげやシューズ入れを一から作りました。ベテランのボランティア講師が完成まで見守りました。

6人参加

3/6 入学・入園



このマークのついている事業は赤い羽根共同募金が活用されています。



傾聴ボランティア養成講座

ボランティア

住みよいまちづくり

どれか
ひとつでも
参加可能

赤い羽根
共同募金

レクリエーション講座

楽しく学んで地域のイベントやサロン・施設などで活用してみませんか

託児も
あります

1/22

地域福祉センターともべ 煎茶の淹れ方講座

煎茶の淹れ方の基本
講師：(株)牧ノ原
大和田千代子さん

16人参加



時間に
ゆとりがなく
そそくさとやり、
味わってなかった
自分の生活を見直したい

日常に役立つ
講座でした
家族に美味しい
お茶を淹れて
あげたい

これから
丁寧にお茶を
淹れたい

知ってる
つもりで
目からウロコと
いう事が結構
ありました

1/29

地域福祉センターともべ バルーンアート講座

24人参加

頭、指先を使いながら、
かつ、感触の良さ、
大人も楽しめると感じた

講師：幅上金次さん



2/5

地域福祉センターともべ ボッチャ講座

講師：茨城県ボッチャ協会
石川敦史さん

6人参加

当日雪のため参加者が
少なく残念！



永原さんによる講演

傾聴ボランティア養成講座
2月19日(月)、地域福祉センターともべで傾聴ボランティア養成講座を実施しました。参加者は34人、講師は笠間の森カウンスリングループの永原伸彦さんです。
傾聴に大切なのは、心の目を合わせることです。受講生は、「うなずき・あいづち」「繰り返し返し」「明確化」の3つのポイントを意識しながら、聴く体験を行いました。

『社協』を知っていますか？

能登半島地震職員を派遣 県社協・大洗町社協と能登町へ

その12

1月1日の能登半島地震支援に、県社協、大洗町社協の方と3人で能登町へ行きました。県社協が市町村社協に呼びかけ、1月24日から1週間交代で、輪島市・珠洲市・能登町社協への支援を行いました。

能登町は、人口約1万5千人、富山湾に面し、輪島市に隣接する山間部の町です。千人以上の方が避難所生活を強いられ、電気は通っていませんが、水道の復旧率は18%、倒壊や津波で被害を受けた建物、道路の亀裂、崩落、段差があちこちにありました。

能登町社協の方々も被災し、避難所や親族の家等から出勤、社協業務や災害ボランティアセンター立ち上げに向けた業



災害ボラセンプレオープン



名古屋市・能美市社協と

務等を行っていました。私たちは、災害ボランティアセンター立ち上げのお手伝いや、関係団体との連絡調整、被災者のニーズ調査に同行し、情報を共有しました。

能登半島は、地理的条件もあり、物流や人の流れが制限され、支援がなかなか進んでいません。そんな中でも地元の方や社協職員がアイデアを出し合い、今ある資源を有効に生かし、少しでも前に進もうという気持ちで強く感じることができました。少しでも早い復興をお祈りいたします。(矢口)

子育て支援フードパントリー



フードパントリーとは、食の支援を必要としている方へ食料品等を無料で提供する活動です。社会福祉協議会では、子育て世帯の明るい未来を応援するため、フードパントリーを実施しています。

市内在住で18歳までの子を養育する①ひとり親世帯 ②祖父母世帯 ③ふたり親世帯で両親のどちらかに障がいのある世帯に、米、インスタント・レトルト食品、乾麺（うどん）、もちなどの食料品と日用品を配付しました。

(第1弾実施期間 1/15～3/29)



市内在住

妊婦さんのいる世帯に配付します！

○母子健康手帳をお持ちの上、社会福祉協議会各支所へお越しください。

○実施期間 4/15(月)～5/15(水)
※先着順、なくなり次第終了となります。

○配付内容

↳左記のとおり、第1弾と同様

第2弾！

ちよっといい話

厚労省によると、茨城県の2023年に生まれた赤ちゃんは、過去最小1万5995人でした。全国的な問題ですが、危機感が湧かないかもしれません。

このままでは、茨城県の2050年の生産年齢人口(15～64歳)は、2020年と比較し32%以上減少すると見られています。特に笠間市は40～50%程度減少するそうです。

人口が減るとどうなるのでしょうか。短期的には労働力が不足することで経済規模は縮小。それにも関わらず、長期的には医療や介護費は増大し破綻するでしょう。

赤ちゃんは急に増えません。しかしこのままではいいはずがありません。私たちは、若い世代が希望を持てるよう、子どもを産み育てやすくするよう。そうして生まれてきた子どもたちが、明るい未来を夢見て、健やかに育つことができる社会を、実現しなければなりません。(入江)



このマークのついている事業は赤い羽根共同募金が活用されています。



善意の寄附を「ありがとう!!!」

(善意銀行預託)



令和5年11月1日～令和6年2月29日まで (順不同・敬称略)

物 品

エコキャップ・使用済み切手・食品・日用品など

岡野けい子
 笹嶋とく
 関絹江
 額田義文
 橋本大敬
 佐藤幸寿
 アイアイルサ福田俊夫
 不動産
 J A 常陸笠間地区女性部
 旭工スケーパー(株)
 板橋精機(株)岩間工場
 イチカワユニオン岩間支部
 (有)伊藤石材工業
 岡本興業(株)
 小沼自動車工業(株)
 (有)笠間給食センター従業員一同
 (株)笠間ソフトメン橋本屋
 (株)DCL
 (株)DCLF
 (株)三栄製作所
 スガハラ(株)
 泰榮電器(株)
 (株)ダイナム
 電化サロンカワチ河内久子
 友部自動車学校
 (有)永山スポーツ

ハッピーわんす
 ファミリーマート友部東平店
 真知美容室
 水戸ヤクルト販売(株)
 明治安田生命笠間営業所
 森田屋入江勇太
 みなみ学園義務教育学校
 笠間高等学校
 友部高等学校JRC部
 岩間中学校
 友部第二中学校
 岩間第一小学校
 稲田小児童クラブ
 岩間第一小児童クラブ
 穴戸小児童クラブ
 みなみ学園児童クラブ
 岩間保育園
 大沢保育園
 みか保育園
 おしのべこども園
 すみれこども園
 大成学園いなだこども園
 大成学園かさまこども園
 岩間第一幼稚園
 こじか幼稚園
 さくら幼稚園
 ともべ幼稚園
 ドレミ幼稚園
 いきいきステップ下市毛
 大沢中3区
 柿橋団地きらくの会

笠間工芸の丘
 更生保護女性会岩間支部
 更生保護女性会友部支部
 上郷産こしひかり
 高齢者クラブ旭台睦会
 昭和40年度笠間中学校同窓会
 第一生命労働組合水戸支部
 日吉町区
 グループホーム花水木
 県立中央病院(施設課・消毒室・リネン室)
 サービス付高齢者向け住宅スマイル
 シルバーパークはこだ
 (福)木犀会さくら
 (福)木犀会ひまわり館
 岩間郵便局
 匿名(2件)

金 銭

河本昭三 30,355円
 河原井美智子 469円
 佐藤幸寿 5,000円
 欧風パブマリモ
 富田由美子 30,000円
 (有)笠間給食センター従業員一同 432円
 (有)三共金属工業所 300,000円
 (有)永山スポーツ 56,763円

岩間ライオンズクラブ 100,000円
 柿橋団地きらくの会 5,000円
 昭和40年度笠間中学校同窓会 53,057円
 社協中央支部有志一同 86,625円
 友部ロータリークラブ 14,711円
 水戸友の会 2,000円
 匿名(7件) 106,543円

能登半島地震災害義援金

(有)三共金属工業所 200,000円
 富田石材工業(有) 100,000円
 笠間市ボランティア連絡協議会 100,000円
 旭フレッシュ健康体操 10,000円
 ナマステの会 50,000円
 にじの会 30,000円
 ふれあいサロンなごみ 26,103円
 ボーイスカウト
 笠間第1団 74,742円
 社協募金箱 107,260円
 匿名(3件) 50,036円

2社と2団体から寄贈いただきました。ありがとうございました。



(有)三共金属工業所様より寄附金と能登半島地震災害義援金



岩間ライオンズクラブ様より寄附金



水戸ヤクルト販売(株)様よりポッチャシート2枚



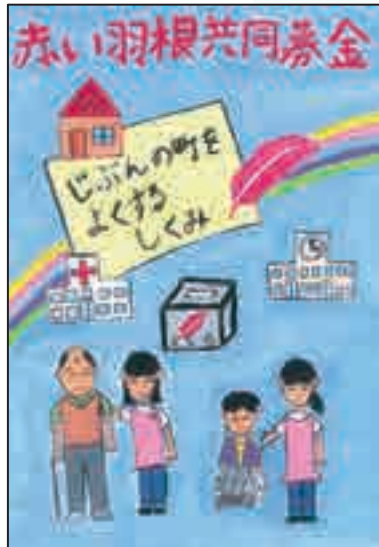
社協中央支部有志一同様より寄附金



小学生 低学年の部

～あかるいみらいのために ちいさなぼきんが、
おおくの人をたすけられるように。
みんなできょうりよくしよう！～

岩間第二小学校2年 こすげ 小菅 せいせい 星聖夜



～笑顔あふれる町づくり～

穴戸小学校3年 おぎわら 荻原 のの 希羽



小学生 高学年の部

～温かいまちづくり～

穴戸小学校6年 わたせ 渡瀬 なつみ 菜摘



中学生の部

～希望の羽根～

笠間中学校3年 ぬまの 沼野 はる 晴



赤い羽根共同募金ポスター優秀作品のご紹介

市内の小・中学生から応募があつた219作品の中から優秀作品としてこちらの作品が選ばれました。
おめでとございます。
優秀作品は、令和6年度赤い羽根共同募金運動の啓発用ポスターとして活用させていただきます。

心配ごと相談所日程表

日常の困りごとなど何でもご相談ください(無料・秘密保持)
時間: 13:00~16:00 (受付は15:30までをお願いします)

	社協笠間支所 [第2・4火曜日] TEL 0296-73-0084	地域福祉センター ともべ [第2・4水曜日] TEL 0296-77-0730	地域福祉センター いわま [第1・3木曜日] TEL 0299-45-7889
5月	14日・28日	8日・22日	2日・16日
6月	11日・25日	12日・26日	6日・20日
7月	9日・23日	10日・24日	4日・18日
8月	27日	28日	1日

※その他、法律相談もあります。事前に心配ごと相談へご相談ください。

「象は、病气やけがをした仲間を両側から支えて歩く。仲間が亡くなると涙を流す」との研究報告がある。
社協だよりを読むと、「支える」の「支」という漢字が多く出てくる。また、ボランティアセンターだより、各地域の活動情報などから、「支える人」「支えられる人」のはっきりしている場面と、時には役割分担が交互する場面のあることにも気づく。
「住民同士で支えあう地域づくり」とは、「お互いさま」「ありがとう」と支えあう共生社会から始まるのではないだろうか。(寺門)

編集後記



SNSのご紹介



(旧ツイッター)

